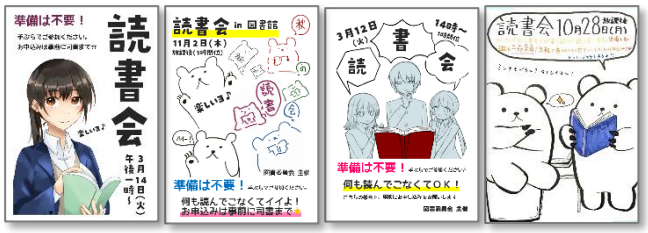
県立西湘高等学校の取組

読　書　会

図書委員会主催の読書会

1 活動の概要

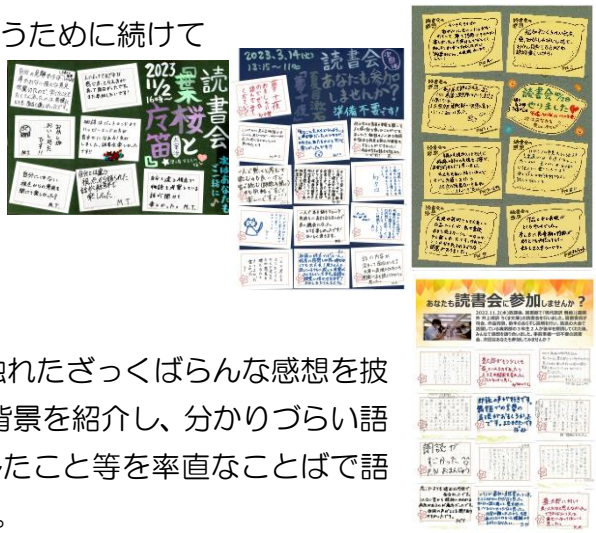
【読書会ポスター】



【読書会の様子】

前々任者から引継ぎ、10 年ほど図書委員会主催で読書会を行っている。当初は、当時在籍していた教員の希望で始めた読書会だが、その後は図書委員の「楽しいからやりたい」という熱意で年に１～２回ほど行っている。コロナ前は当初から参加していた卒業生と共に行っていたが、現在は校内のみで行っている。事前に課題本を読んでくるスタイルで始められたが、現在は図書委員が参加者募集ポスター作成、課題本の背景や著者紹介、朗読の手配などを行い、参加者は事前準備なしにその場で朗読を聞きながら読み、語り合う形に落ち着いた。全て放課後に収まるように行うので、長編は選べないが、飛び入りでも参加でき、参加した者はほとんどが「また参加したい」と言ってくれる。課題本は「青空文庫」にある文学作品から図書委員が決め、学校司書が同じ本を参加人数分他校から借り受けて準備をする。「正しく読み解く」というよりは、自分では選んで読まないような作品でも、心に響くものがあることに気づき、自分の思いを言葉にする楽しさを感じてもらうために続けている。

【感想カード】



2 活動の状況、実際

【対象】図書委員と参加を申し出た生徒・教員と学校司書

【作品】梶井基次郎著『檸檬』（2024 年度１回目）

【内容】最初に作品の朗読を聞きながら読み、初めて触れたざっくばらんな感想を披露しあう。続いて、図書委員から著者と作品背景を紹介し、分かりづらい語句の説明を学校司書が行った。その後は感じたこと等を率直なことばで語り合った。最後に感想カードを記入して散会。

【生徒の様子】開始直後は、クラスや学年が違い、初めて相対する他の参加者を前に緊張も見られたが、会が進むにつれて和やかな雰囲気になり、終わっても話が尽きないようで、なかなか帰ろうとしないほど楽しそうだった。

3 参加者、指導者等の声

- 散会直後に「今度いつやる？来週？絶対また来たい！」と言ってくれる生徒や、知らぬ同士だった者が楽しそうに話している様子を見ると、この機会を提供し続けていきたいと思った。
- 毎回「一人で読んでいたら気がつかなかった新しい視点が得られた」旨の感想があり、同じ本を囲んでみんなで読むことの意義を感じる。参加者は、読書は一人でも楽しいけれど、大勢でも楽しめるものだと実感したようだ。
- 演劇部員に課題本の朗読をしてもらったときは、圧倒的な臨場感で、登場人物の心情を追体験しているように胸に迫り、参加者の感動もひとしおだった。好きな絵本の紹介をし合ったときは、みんなが読んでみたいと思った絵本を紹介者にその場で読み聞かせしてもらった。一口に読書会と言っても、アイディア次第でいろんなやり方が可能だと感じている。